

酪農の仕事

新潟の健康を支える、

酪農家になろう！



お問い合わせ

新潟県酪農業協同組合連合会 TEL 025-241-3021

独立行政法人農畜産業振興機構後援 酪農経営支援総合対策事業(地域の生産体制強化事業)

日本の牛乳・乳製品は「安全・安心」。

日本において、牛乳・乳製品(生乳)は米よりも需要量の多い食品です。

酪農は生乳を搾ることを基本とする産業ですが、そのために乳牛を育てる、飼料を生産する、糞尿を再利用するなど、多様な要素を持っており、それぞれの過程に関わる産業従事者や、指定生乳生産者団体、乳業メーカー、小売店など、多くの関係者の生活を支えているということになります。

このように、日本の酪農はひとつの産業としても大きな規模になっています。

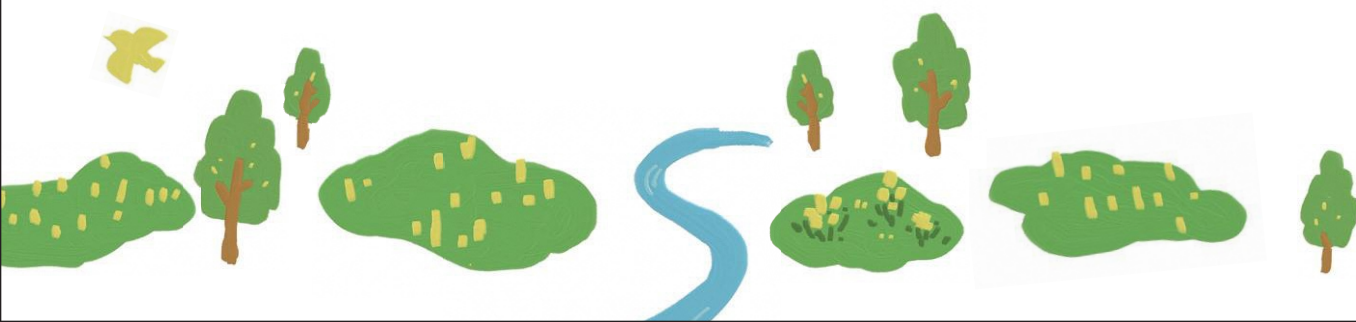
一方、生乳は栄養価が高い反面、腐敗しやすいため保存が難しいので、需要も日々かつ季節的に変動し、需給調整の難しい農産物です。また、流通の各段階で検査をきめ細かく実施しており、日本の牛乳・乳製品は高い水準の「安全・安心」が保たれています。



酪農家が愛情を込めた「新潟県産牛乳」。

県内酪農家の人たちが愛情込めて搾った「生乳」を使った「牛乳」。

新鮮、安全、安心、おいしい新潟県産牛乳は、新潟の豊かな大地で育てられた牧草や飼料用稲などを食べ健康に育てられている乳用牛と、愛情を持って牛を育てている県内酪農家の人たちとのコラボレーションによって、日々生産されています。



酪農家の仕事って 知っていますか？

・朝の仕事は、牛舎の掃除、エサやり、
搾乳、子牛の哺乳などを行います。

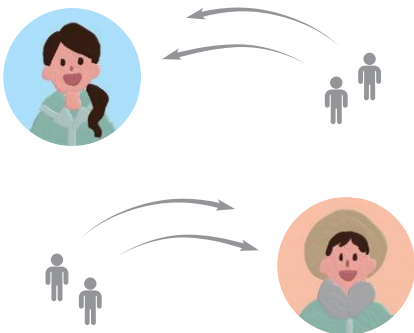
・夕方仕事も、朝と同様に行います。

・日中の時間の過ごし方は、牛の健康チェックや
糞尿を堆肥にする作業、牛舎の周りの手入れの
ほか、機器のメンテナンス、飼料作物のための
畑仕事、牧草地の手入れ、子牛の世話、出産の準備
に関わる仕事などがあります。



・酪農は、良質な生乳を作るために乳牛の健康を維持する
必要があります。

牛は暑さに弱い動物なので、暑い季節は牛舎内にある扇風機
を回すなどして過ごしやすい環境にして飼育環境を管理して
います。乳牛が風邪を引いたり、病気になったりした場合は
獣医師を呼び、診療をしています。



こんな環境で働いています。

酪農従事者は、生き物を扱う仕事のため1年を通じて1日も休むことができません。

しかし、家族や従業員がいる酪農家の場合は交代で休日を取っています。

また現在は「酪農ヘルパー制度」があり、酪農家が休みを取るときには

酪農ヘルパーを派遣してもらうこともできます。

更に、労働負担を軽減するため、機械・装置の導入等がされ始めています。



具体的な各作業を紹介します。

搾乳

一般的に朝と夕方の2回行いますが、1日に3回行っている方もいます。搾乳の前には、牛の乳頭を消毒して清潔にします。主にミルクラーと呼ばれる搾乳機で衛生的に行い、冷蔵タンク（バルククーラー）に貯乳します。搾った生乳は、サンプリング検査と計量の後、乳業工場に運ばれます。

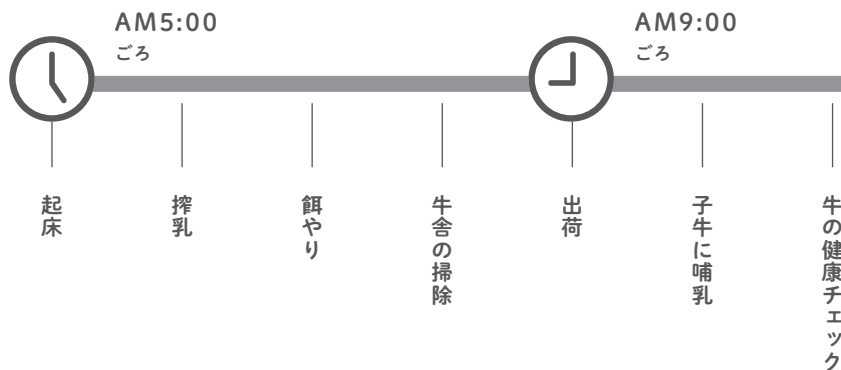


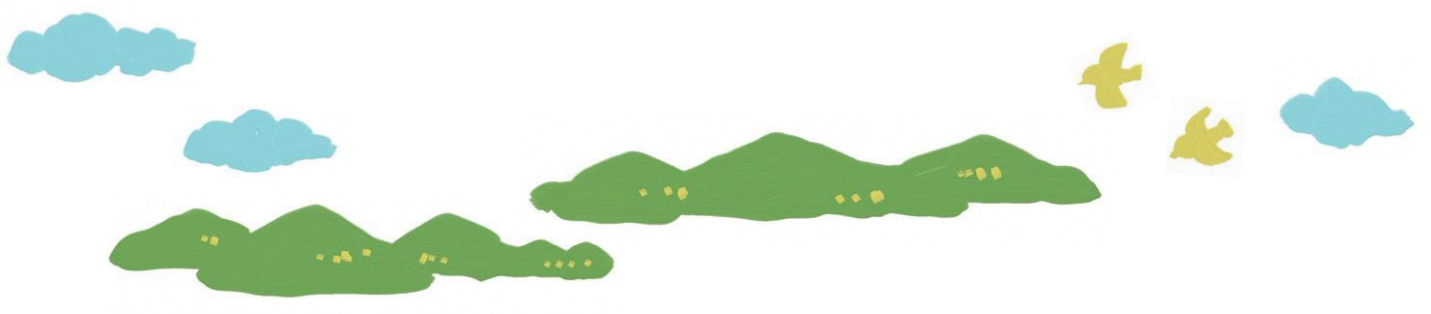
給餌(エサやり)

餌は1日に3回程度、決まった時間に行ないます。初めに青草や干し草、干し草を発酵させたサイレージなどの牧草類を配った後、穀物や配合飼料などを順番で与えます。また、近年はTMR(Total Mixed Ration)といわれる、濃厚飼料、糟類、粗飼料、ミネラルなどを混合した飼料の利用が始まり広く普及しています。



ある酪農家の1日のスケジュール





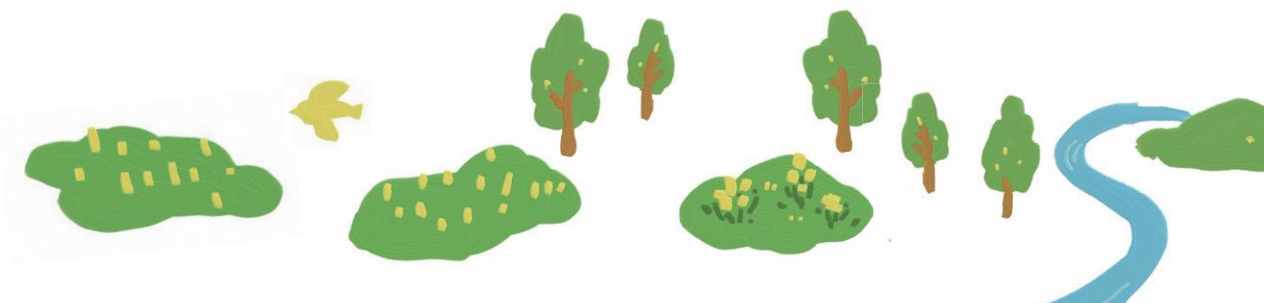
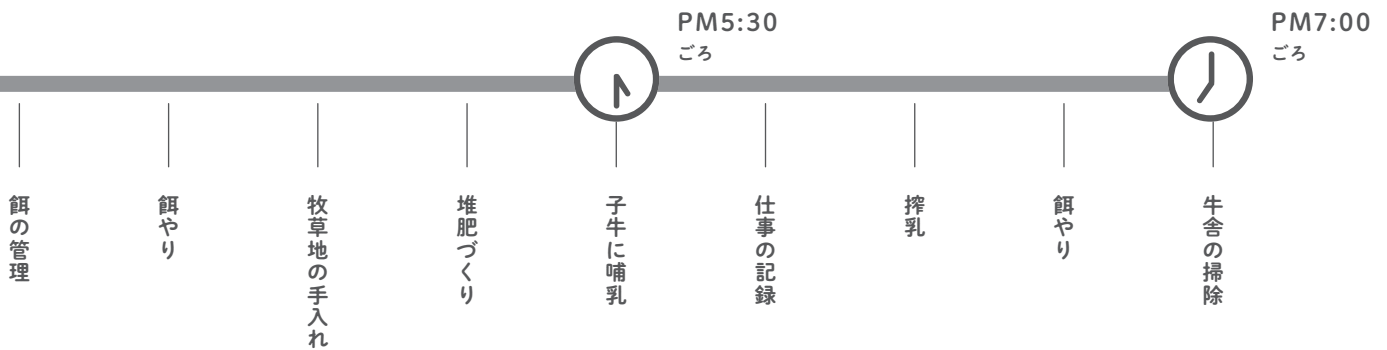
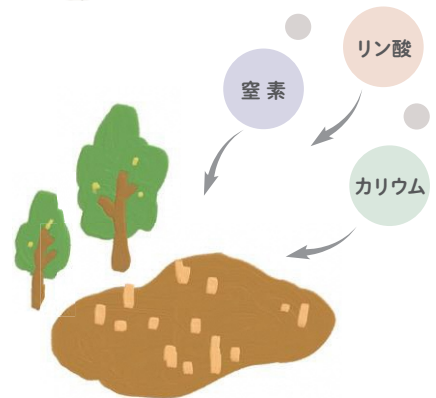
人工授精

乳牛は出産しないと乳を出してくれないため、概ね1年に1回はお産をさせる必要があります。そのため人工授精といった仕事にも携わっていきます。母牛は、子牛を産んで40日以降に再び妊娠し、乳を出しながら、おなかの中でつぎの子牛を育てています。妊婦の状態である乳牛に対し、餌の与え方や健康管理に昼夜を問わず細心の注意を払っています。また、優良な乳用牛を後代に残す改良や和牛精液を授精して肉用牛を生産し生乳以外の収益を得ています。また現在は受精卵移植も多く利用されています。



家畜排泄物の堆肥化

家畜排泄物には窒素、リン酸、カリウム等の肥料的効果があり、良質な堆肥の活用は栄養素が豊富な土となり、良質な自給飼料にもつながるほか、安全・安心で美味しい農産物生産に有効です。近年の化学肥料価格高騰において家畜堆肥の利用は、肥料成分量を考慮して化学肥料の施用量を減らすことで、コスト低減にもつながり肥料原料として見直されています。また環境に配慮した農業として、消費者の支持を集められる貴重な有機肥料資源堆肥です。



そのほかにも、こんな作業があります。

自給飼料生産

飼料作物を得るため、乳牛の主食である牧草の栽培も行います。
春に堆肥を蒔き、秋の収穫に至るまで乳牛の世話と並行して行います。
栄養価の高い餌や発酵させ長期保存加工した牧草、トウモロコシなどを
サイロで発酵させ「サイレージ」という飼料をつくるなどして工夫しながら取り組んでいます。
現在は、ラップサイロという発酵手法が多くなっており、大型機械(ロールペーラー)で
円筒状に梱包した自給飼料をポリエチレンラップで巻き上げて密封し発酵したものが
多くなってきています。近年は稲を発酵させたWCS(Whole Crop Silage/稲発酵粗飼料)や
飼料米の利用など水田の有効活用や食料自給率向上に貢献すると関心を集めています。
また、栽培収穫を負う組織コントラクターの利用も増えています。



詳しくは
こちら ▶▶

Youtube動画



酪農機器の活用

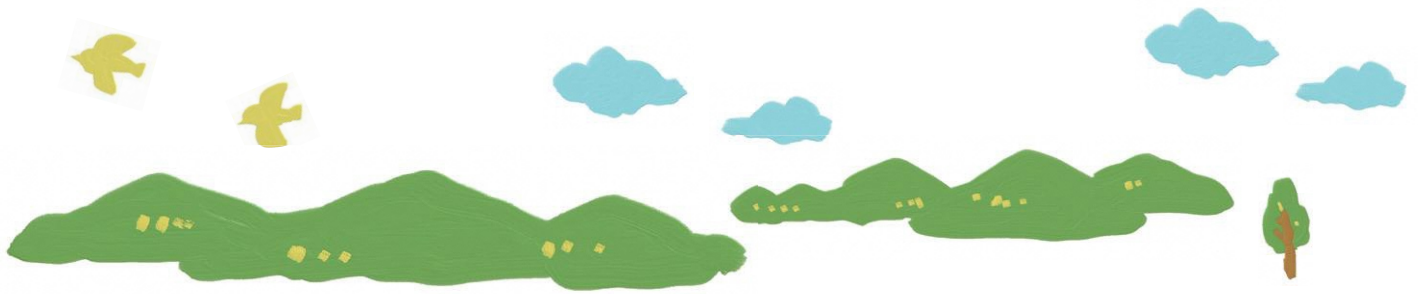
自動搾乳ロボットという搾乳作業を自動化するシステムとして注目されています。
搾乳時に体重や配合飼料給与量と残飼量、乳質データなどが蓄積し、
産乳とエネルギー補給のバランス、乳脂肪・乳タンパク、代謝病発症の危険性の
表示により疾病の早期発見・早期治療につなげることができます。
また牛に装着したタグに内蔵させたセンサーによる活動量や反芻時間のデータを
搾乳ロボットのデータと照らし合わせることで、最適な授精タイミングの情報を得ることも
可能となっています。また自動給餌機により乳牛としての能力を十分に発揮しながら
健康を維持できるようプログラムを設定し、それぞれの牛群に合わせた給餌をおこないます。



詳しくは
こちら ▶▶

Youtube動画





私たち「酪農家」の仕事の魅力、やりがい…etc

読むごとに、酪農家のリアルな姿が見えてくる。
ぜひ、未来の就職の選択肢として考えてみませんか！



新発田市 ABE牧場

優しく丁寧な飼養管理を。



阿部 雄太郎

当農場では市内を流れる河川の河川敷にて栽培する牧草や県内の製造業者様より提供される食品副産物をウシたちの飼料として利用しています。

作物の生産には不適な土地を有効活用し、本来なら廃棄されてしまう未利用資源を栄養豊富な牛乳へと作り替える様はウシが持つ素晴らしい特性の一つではないかと思っています。

それを最大限に引き出してあげられるよう優しく丁寧な飼養管理を心掛け日々の仕事に取り組んでいます。

三条市 村佐喜農場

自由にやりがいのある毎日！



村山 喜隆

どンドン酪農界へ遊びに来てね〜♪
服装自由！髪型自由！ラジオ、音楽聴き放題！
季節を感じる仕事、命を感じられる世界です。
人付き合いが少し苦手な人も
牛となら話せるかMO!!!

佐渡市 本間牧場

酪農には多くの可能性がある。



本間 友樹

仕事の可能性は多岐に渡ると感じています。6次産業、地域ふれあいの場、乳量追求、血統マニア、放牧にこだわりたい、グラスフェドのミルクが好き、ロボットでも乳搾りしたい、単純に可愛いな牛、健康に育てたい、儲けたい、ショーや共進会が好きすぎる、トラクターや重機の好きがすぎる、牧草を作るのが得意、雪かきが上手、365日休みは無いから365日が休み、ホームセンターが庭、家族といつも一緒が良い、トランペットで牛を呼びたい、ギターでも良い、本がたくさん読める、繊維質をタンパク質に変える最強の生物「牛」と戯れたい。どれにどんだけ想いを置きシフトステップして良く、自由です。憧れをつめこんで。

上越市 酪農ヘルパー

食卓に安心を届ける大切な仕事。



塚田 ひかり

酪農家さんの休日を作るお仕事、酪農ヘルパーです。朝が早く、農家ごとにやり方も違い大変なこともありますがとても楽しい仕事です。いろいろな人と関わりながら酪農だけでなく人としても様々な勉強が出来ています。農家さんからの感謝の言葉や日々の食卓に並ぶ食材に自分も関わっていることにとてもやりがいを感じています。酪農業は、とても楽しいやりがいのある仕事です。

